

令和7年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果検証

学校の概要

南百済小	学校	児童数	501
------	----	-----	-----

平均値

5年生	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横跳び	20m シャトルラン	50m走	立ち幅跳び	ソフトボール投げ	体力合計点
男子	14.84	18.26	38.97	48.86	48.27	9.50	143.84	21.03	52.58
大阪市	15.70	19.17	33.01	38.63	45.42	9.52	148.43	20.76	51.54
全国	15.96	19.46	33.88	40.89	47.94	9.46	150.93	21.06	53.02
女子	14.87	17.19	41.68	46.27	32.41	9.97	128.87	12.43	53.00
大阪市	15.40	18.33	37.58	36.86	35.15	9.83	139.41	12.67	52.58
全国	15.61	18.36	38.15	38.70	36.85	9.77	142.34	13.11	53.97

結果の概要

特筆すべき点は、男女ともに「長座体前屈」と「反復横跳び」の数値が全国平均を大きく上回っていることだ。一方で男女共通の大きな課題として浮き彫りになったのが「立ち幅跳び」である。体力合計点を見ると、男女ともに大阪市平均を上回っているが、全国平均から男子は0.62、女子は0.97下回った。

アンケート調査の結果、男子と女子で運動に対する意識に顕著な差が見られる。男子は「スポーツが好き」と回答した割合が97.3%、週1時間以上の運動時間がある児童も97.2%と非常に高い。反面女子は「スポーツが好き」71%、週1時間以上の運動時間72.4%に留まっている。女子の総合評価を見ると、40%の児童がAまたはB評価を受け全国平均を上回っている反面、E評価を受ける児童が全国平均の2倍以上存在していた。

これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

投の力向上を目標に掲げて2年目、大きく全国平均と差を空けられていた「ソフトボール投げ」は全国平均に迫る勢いで伸びてきている。とは言え、まだわずかに全国平均を下回っているので、投の運動に親しむ環境づくりやイベントの取り組みは継続していく。また、今回「立ち幅跳び（跳躍力）」が課題として挙がったが、「長座体前屈」で優秀であることは、跳躍力を伸ばすための大きなアドバンテージであると考える。柔軟性（伸びる力）があるので、あとはそこに瞬発力（素早く縮める力）を加えていきたい。そのため、「跳躍力」を鍛える運動（プライオメトリック・トレーニング等）を体育学習のウォーミングアップに取り入れていく。また、運動することに苦手意識をもっている児童も運動に親しめるように、厳格な競技ルールよりも、友達と一緒に楽しめる「遊び」の要素が強いメニューを導入したり、誰でも達成可能な「級」や目標を設定したりし、小さな成功体験を積み重ねるなど運動に親しみやすい環境づくりに努めていく。